



発行 公益社団法人
武蔵野市シルバー人材センター
編集 広報編集委員会
武蔵野市中町 3-5-16
電話 0422-55-1231 (代)
URL <http://www.musashino-sc.or.jp/>

210(秋)号 もくじ

■職群紹介・職場紹介…………… 1～2
■就業体験記…………… 3
■加藤会長寄稿「高齢者をどう生きるか? I」…………… 4
■私のふるさと…………… 5
■武蔵野・ぶらり・時空旅…………… 6～7
■ひろば、むさしのSCトピックス、新入会員、
お亡くなりになった方、編集後記…………… 8

職 群 紹 介

武蔵野市シルバー人材センターは、昭和53年設立以来40年を経て仕事の種類も拡大し、会員の皆様にどのような仕事があるのかを職群分類で理解して頂きたいと紹介することになりました。

一つの仕事だけではなく幾つかの仕事を組み合わせて、充実した日々を送っている方もおられます。

シルバー人材センターの上部団体である東京しごと財団では、会員が就業する仕事を「技術群、技能群、事務整理群、管理群、折衝外交群、一般作業群、サービス群、その他」の職群という単位で分類して管理を行っています。この分類はシルバー人材センターで行う事務処理システムで使用していますが、会員の皆様に実際に仕事について頂く

ためには少しわかりづらいものとなっています。

センターで行っている色々な仕事をその内容、人員、仕事の共有、ローテーションなどを考えて、就業の拡大と課題解決を組織で対応できる体制をとりたいとのことで、仕事を「班」と「グループ」に分類するようにしています。

班とグループの違いは以下の通りです。「班」については、仕事の継続性、就業者の人数規模、班内でのリーダーの有無、定期的な班集会の開催などを考慮して分類しています。前記に該当しないものを「グループ」と呼んでいます。「班」については、一覧表を掲載します。

今回は「班」としてリサイクルを次頁で取り上げ紹介します。また就業体験報告として「清掃」、「便利班」、「補習教室」を紹介します。引き続き次号でもいくつかの班の体験報告を行います。

〈職群分類〉

班	作 業 内 容	公共	民間
①	広報誌配布 市発行の市報むさしの、市議会だより、教育むさしの等を全戸配布	○	
②	学校施設管理 市内小中学校の施設開放の管理と開放事務管理	○	
③	緑化班 市内の公園等の除草、清掃	○	
④	浄水場清掃・水道部清掃	○	
⑤	学校施設清掃 指定された学校の施設の清掃	○	
⑥	ふれあい訪問収集 お身体の不自由な方のお宅を訪問し安否確認と日々のゴミ出し作業	○	
⑦	便利班 粗大ごみの搬出など色々な仕事		○
⑧	駐輪場管理 デパート等の駐輪場で駐輪の受付、自転車の整理等		○
⑨	家事援助・子育て支援	○	○
⑩	植木班 家庭の植木の剪定等		○
⑪	ふすま班 障子、ふすま、網戸等の張替		○
⑫	除草班 家庭の庭等の除草		○
⑬	マンション清掃 民間のマンション等の共用部分の清掃		○
⑭	筆耕班（毛筆・硬筆） 民間・公共等の賞状などを書く仕事	○	○
⑮	手芸小物班 人形・ポーチ等を作成し、定期的に販売		独自事業
⑯	リサイクル班 家具・自転車等のリサイクル販売		独自事業
⑰	補習教室 小学生・中学生を対象に授業の補習		独自事業
⑱	パソコン教室 パソコンのスキルアップを目標にした教室		独自事業
⑲	その他 登下校時の交通案内、季節的な運動施設管理、無断駐輪の防止管理等、時期限定の仕事類	○	○

職 場 紹 介

リサイクル班（リサイクル事業）の職場紹介

仕 事 内 容：家具・自転車などの再生・販売、その他小物・雑貨・食器などの販売

仕事の場所：センター1階他

仕事の時間：平日＝午前9時～午後3時、第4土曜日＝午前10時～午後4時（12月は第3土曜日）

就 業 人 員：22名

リサイクル班は4つのグループの集合体であって、当センター1階が商品展示室兼職場です。年3回の全体会議で分割されたグループのコミュニケーションをとっています、そのあと懇親会等があり、和気あいあいと法令遵守を念頭に仕事に励んでいます。各グループの仕事は下記の通り。

家具グループ：運転班が収集してきた家具を修理・調整し、値段をつけ展示・販売しています。6名のローテーション就業で1日3名で就業しています。

自転車グループ：運転班が収集してきた自転車を修理・調整し、展示・販売すると共にパンク修理、その他不具合箇所の修理を4名のローテーション就業で1日2名で就業しています。

家具グループ



リサイクル品展示・販売所

自転車グループ



運転グループ

運転グループ：運転グループは下見・収集・搬出・配送が主な仕事で、ある程度の商品の目利きが必要ですが、だんだん慣れてきます。6名のローテーション就業で1日3名で就業しています。

百聞は一見にしかず

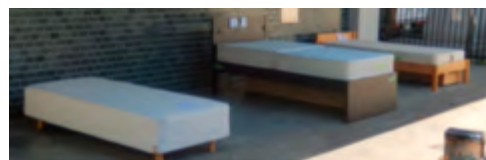


会計グループ

会計グループ：接客・レジ打ちが主な仕事で、下見依頼伝票を運転ルートに振り分ける作業は慣れないと大変です。6名のローテーション就業で1日3名で就業しています。

ベッドフェアの開催（毎週水曜日：雨天中止）

ベッドフェアは毎週水曜日に展示スペースの関係で普段展示室に展示できない商品を3～4台並べて、販売していますので、是非一度御来場ください。



就業体験記



清掃班

平成27年4月に入会し、翌月からマンションの共有部分の清掃をしております。一人で就業しており、廊下の掃き掃除・拭き掃除・モップ掛け・ゴミ置き場の掃除やゴミの分別・落ち葉掃きなどを2時間かけて行っております。

現場では天候や季節など様々な要因によって汚れ方や落ち葉の量が変わったりします。また、ゴミ置き場では分別が行われていないまま捨てられているものがあったりします。日々の仕事で気を付けていることとして、敷地内の植木が多いため落ち葉掃きに時間がかかるので、週単位で内回り、外回りを分けて行っております。また、その都度現場を見て汚れの酷い所を重点的に掃除する、掃除の仕方や手順を工夫するなど、状況に応じて実施しております。それでも現場で判断に困ることがあれば、自己判断せずセンターに連絡して確認をとってから行動しております。

最後に、仕事を始めた時から挨拶をしっかりすることを心がけております。初めは挨拶しても返してもらえないこともありましたが、今では向こうから「おはようございます」「お疲れ様です」など、声をかけてもらえるようになりました。清掃員として住人の方々に信頼されることは大切ですし、日々の仕事のやりがいにもつながっております。

今後も自身の健康管理をしっかりと行い、せっかく働くのですからお互いに気持ちよく働けるように、やりがいをもって仕事をしていきたいと思っております。

西久保 橋本 欣明

便利班

便利班の仕事を仰せつかって12年になります。サラリーマン時代は総務として、学校関係者や新入社員、取引先の関係者との接触が長かったので、便利班に入ってから仕事先のお客様との対応で不安を感じることはありませんでした。また、シルバー人材センターの仲間同士におきましても、楽しく会話ができて仕事も楽しくやってくる現状です。

お客様との対応についても、気持ちよく大きな声で挨拶をして作業を受けていますので、先方も安心して仕事のリピートをしていただいております。今日に至っております。何よりもお客様から信頼を受けて作業が続けられることが自分自身にとっても働いている実感が湧いており、このことが長くシルバー人材センターで働ける要因ではないかと思っております。

初めてシルバー人材センターで仕事をされる方々は、お客様に対する取り組みは、親近感を持って挨拶から始まって、作業が終わってから仕事をいただいたことを感謝するお礼の挨拶を続けていくことが便利班の仕事だと思っていただければよいのではないのでしょうか。

最後になりますが、便利班の主な仕事は粗大ごみの搬出（タンス、食器棚、ベッド、テーブル等）で約1時間。窓ガラス・換気扇の清掃等で約1時間～2時間の作業です。

桜堤 早田 紀夫

補習教室

昭和54年発足以来、社会経験・学習指導経験の豊かな先生方が、一人ひとりの子どもときめ細かく向き合う温かい授業を行い、子どもに安心感を与え学力を伸ばします。

中町・吉祥寺・桜堤の3教室で、小学校3年生～6年生、中学校1年生～3年生を対象に、国語・算数（数学）・英語を指導しています。

保護者の皆さまからの信頼も厚く、市の期待も高い学習支援事業です。

境 上田 孝敬

高齢者をどう生きるか？ I

会長 加藤 之義

人生100年時代を迎え、高齢者はいかに生きるかを考察して提案したいと記述してみました。

人として生まれどう生きるかは各自人生を重ねる中で、少なくとも一度以上悩んだり考え込んだ経験がおりと思います。筆者も今年「後期高齢者」となり、100年時代という言葉に噛み締めてあと25年という四半世紀をこんな風に生きようと考え始めました。

もちろん人生は各個人のものであり、ひとから強制されるものではありません。また、誰かのアドバイスを信じてその通り生きて、もし後悔に直面した時の責任は誰かが取ってくれるものではなく、すべてはあなたの自己責任となります。

我々は幸いにして武蔵野市シルバー人材センターに入会しております。親しく相談したり悩みを聞いてくれる仲間がいます。その第一回として「高齢者をどう生きるか？」を発信します。

第一回目は、どうしてシルバー人材センターができたかを、発案の中心として推進された大河内一男先生のお話をまとめて紹介いたします。

(文責在加藤之義)

＜なぜ思いつかれたか？＞

当時（昭和50年早々）、高齢者＝老人を守る法律は昭和38年制定の「老人福祉法」であり、その二条では「老人は多年にわたり社会の進展に寄与してきた者として敬愛され、かつ健全で安らかな生活を保障されるものとする」と記載されています。「人生50年」を何の抵抗もなく過ごしていた、当時の戦前生まれの高齢者は引退すれば隠居生活が当然としてこの条文に満足？

しかしその第三条二項には「老人はその希望と能力とに応じ、適当な仕事に従事する機会その他社会的活動に参加する機会を与えられるものとする」とあったのです。一般の老人は上述しました通り「敬愛され健全で安らかな生活保障」に満足していたのでしょうか。私どもの父親がその年齢に当たります。

ほとんどの親父が定年あるいは自営業引退後は趣味や道楽にふけったり、好きな「盆栽」などで暇つぶしの人生を送っていました。

大河内先生たちはこの条文に対する国や地方自治体の忘れ勝ちを見逃さず、徐々に押し寄せる高齢化の波も把握され「老人だからといって尊敬し崇め奉るというだけではいかん。あるいは、生活を保障するだけでもいけない」と着々とシルバー人材センター（当時は高齢者事業団）構想を進められました。

- ・高齢者は「働く」ことによって、実はその地域コミュニティにおける大事な一員であることの自覚と誇りを身につけるようになる。
- ・背をまげて下を向いて歩くのではなく、胸を張って歩く高齢者が高齢者事業団の高齢者である。

以上の認識から、雇用に係わる事業はあくまで労働省系、福祉や生きがいに係わる事業は厚生省系との縦割り行政にも根気強く折衝を重ねられました。背景には「福祉の受け手から社会の担い手へ」の信念がありました。昭和50年代の高齢者の状況や総人口に占める高齢者の割合から先生たちが予測した昭和80年（2005年）はすでに通り過ぎました。今や65歳人口は3,500万人を超え、たったの24年後の2042年には4,000万人を超えてピークを迎えると言われています。

人口減少局面に入り勤労者年齢（20歳～59歳）が減少する中で、われわれ高齢者の役割は益々重要になります。

さて、あなたはどう生きますか？初回は固い話になりましたが次回はもっと身近なお話にまとめる予定です。乞うご期待！！

【大河内一男先生紹介】（1905.1.29－1984.8.9）

経済学博士、東京大学総長、同名誉教授
卒業生への訓示「太った豚より、痩せたソクラテスになれ！」は有名。



私のふるさと

—— 第17回 台湾・新北市 ——

桜堤

葛馬 秀美 会員



★葛馬さんが生まれ育ったのは台北市の郊外（現在は新北市）の鶯歌鎮（おうかちん）という自然に恵まれた地であった。地名の由来は近くの山に鳥の形の巨石があるためだという。

★ご幼少時に過ごされた鶯歌鎮はどんなところでしたか？

●両親と7人兄弟（2番目で長女）の9人家族で、幼い頃は歩いて30分位離れた保育園のような所に通っていました。子供たちは裸足か黒い布靴や下駄を履き、田んぼの畦道をつたいながら歩きました。側を流れる小川には小魚やしじみ貝がいました。当時は交通機関がなく、線路上を人力で動く台車に乗って買い物に行ったりしました。

台湾は果物が豊富に獲れます。家の周りには龍眼（りゅうがん）の樹があり、市では芭樂（ばら＝グアバ）、楊桃（ようとう＝スターフルーツ）等、日本では見られない果物がいろいろ売られていました。よく仲間と連れだって近所の龍眼狩りに行ったものです。手が届かない所は台を持ってきて、枝いっぱいの実をもぎました。



龍眼



スターフルーツ

★野山に親しんだ田舎暮らしの後に都市部へ越されたそうですね。

●7歳位の時、父の仕事の都合で30～40分離れた市街地へ移りました。広い敷地でしたから豚を数頭飼っていましたが、立派に育てると品評会で賞を狙うこともできました。中学・高校時代は電車通学でした。お弁当を持っていくのですが、学校

には大きな蒸し器があるので熱々のものが食べられました。

★日本へ来られたきっかけは何でしょうか？

●卒業後しばらく福祉関係の仕事に就いていましたが、そこで様々な生活困難者に接して大きな衝撃を受け、行く先や結婚に不安を感じました。たまたまご近所に日本人と結婚した知人がいたので、日本の方を紹介され、結婚することになったのです。武蔵野市には平成4年から住んでいます。

★ふるさとの思い出をお聞かせください。

●日本へ来て約30年、ふるさとを思い出す時、友人たちと果物狩りで口いっぱい頬張った龍眼の瑞々しさや、夜市の屋台を巡って食べた台湾の味がよみがえります。緑豆湯（りゅうとうさん＝豆を煮たお汁粉のようなもの）や愛玉氷（オーギョーチ＝つる性植物の種から作るゼリー）で涼をとり、小鳥がくわえて来る札の占いで一喜一憂したことも懐かしく思い出します。

★葛馬さんのふるさは今や振興著しく、陶芸が盛んで安く質の良い茶器が買えるとあって、一大観光都市になった。「東方美人」と呼ばれる香り高い烏龍茶を中国茶道で頂ける茶店が立ち並び、観光客で賑わっている。

（聞き手 編集委員 高山）



真ん中で赤ちゃんを抱いている幼少期の葛馬さん

武蔵野・ぶらり・時空旅

16

吉祥寺北町 下谷 一廣

☆中島飛行機・武蔵製作所 PART 2

1. 米軍機による武蔵製作所爆撃

昭和19年（1944）11月1日、快晴

この日、中島飛行機・武蔵製作所に勤めていた古内竹二郎さんは昼食を食べに食堂に向かう途中ふと雲一つない青空を見上げると東の空にキラリと光る物体を見た。

「4本の煙を引いていた。まだB29も飛行機雲も知らない。きれいだなあ、と思ってね」と語っている。（季刊むさしの番外編からの引用）しかしこれが悪夢の始まりだった。

B29は11月5、7日にも飛来し、高度1万mから詳細な空撮をしていた。前号に掲載した写真がその時撮影したものである。

昭和18年にはアメリカ陸軍航空軍司令官ヘンリー・アーノルドによって日本空爆案が策定され、第一目標を航空産業、第二目標を都市工業地帯とすることが決定していた。その第一目標が中島飛行機・武蔵製作所であった。

空撮した武蔵野・多摩地区の航空関連産業に狙いをつけ綿密な作戦がたてられ、ヘイウッド・ハンセル准将麾下の第21爆撃集団のB29が昭和19年（1944）11月24日、午前5時16分にサイパン島アイズリー基地を離陸した。

その後2時間半の間に計111機が武蔵野を目指して飛行を開始した。このうち64機は東京湾地域に向かい残りの24機が24日12時12分、武蔵野上空で爆撃を開始した。



1945年8月8日の空襲の写真
眼下に中島飛行機武蔵工場が写り込んでいる

この爆撃で亡くなった方が57名、負傷した方は75名だった。この爆撃を含めて終戦までに武蔵製作所は計9回の攻撃にさらされた。

合計9回の空襲の損害状況

日付	損害			死者(名)	負傷者(名)
	建物	設備	機械		
1944年11月24日	1	0	2.4	57	75
1944年12月 3日	5	2	0.1	60	21
1944年12月27日	5	2	0.9	8	40
1945年 1月 9日	2	0	0.2	6	8
1945年 2月17日	25	5	3.2	80	115
1945年 4月 2日	4	0	1.1	3	2
1945年 4月 7日	10	0	0.6	1	1
1945年 4月12日	10	5	0.5	1	1
1945年 8月 8日	60	80	0	4	3
合計	—	—	—	220	266

たった1年足らずで日本一の威容を誇った飛行機エンジンの工場は廃墟と化したのである。「証言・中島飛行機武蔵製作所に動員された学徒の記録」などを読むと今迄隣にいた同輩が何人も傷つき亡くなっていくのを目の当たりにしている。その中には中・高生も多く何とも痛ましい限りである。

戦争を体験した方が少なくなっているが、こうした戦争による悲劇は次の世代に語り継いでいってこそ意味がある。市民団体・「武蔵野の空襲と戦争遺跡を記録する会」は地道に遺跡保存や遺物収集、被害の実態を調べる活動を続けてきたが、史実を後世に伝えるため都と市に中央公園内に説明板を設置するように働きかけていた。今年ようやくその願いがかない、高さ1.5m、幅1.2mの説明板が5枚設置された。6月23日の朝日新聞・むさしの版に見出し「武蔵野の空襲の惨禍 後世に」として記事になっている。是非機会があれば訪ねてみてください。説明板は公園東側にあります。



空襲を受けて燃える工場
呆然としてたたずむ従業員

2. 中島飛行機武蔵製作所の跡地利用

長年、武蔵野にお住まいの方は中島飛行機武蔵製作所が廃墟となってから、その変貌する姿を目の当たりにしてきたと思いますが、改めて今の状況を下図に示しました。とても図では詳しく書き込めないなので簡条書きでまとめておきます。

何しろPART1でも書きましたが56万㎡の広さでしたから、跡地利用については議論百出、市民運動も盛んで何年にも亘って紆余曲折がありました。終戦から35年を経て1980年に市役所が現在の場所に建設され、平成元年（1989）6月1日に**武蔵野中央公園**が開園され跡地利用の喧騒が終息しました。終戦から44年経っていました。

詳しくその間の経緯を知りたい方は「武蔵野市百年史」をはじめ数多くの参考資料が図書館やふるさと歴史館にそろっています。

- 武蔵製作所→1954年米軍将校用住宅 1976年全面解体→1977年市民に開放→1989年武蔵野中央公園
- 1950年電気通信研究所→NTT武蔵野研究開発センター
- 1947年武蔵野文化都市建設→1951年武蔵野グリーンパーク野球場→1958年公団住宅 1950年都営住宅
- 1954年アメリカンスクール→1980年武蔵野市役所
- 1954年米軍消防署→武蔵野東小学校 1978年東京都立武蔵野北高等学校
- 武蔵製作所陸上競技場・社員クラブ→武蔵野陸上競技場 武蔵野総合体育館



現在の武蔵野市周辺の様子
赤枠内が武蔵工場

- 武蔵野製作所プール→市営プール
●武蔵製作所付属第一青年学校→慶応義塾大学医学部→1953年武蔵野市立第四中学校

とても全部は書ききれませんが、小生が施設管理員としてお世話になった第四中学校も中島飛行機関連施設だったとはごく最近まで知りませんでした。

武蔵野グリーンパーク野球場は国鉄スワローズの本拠地で後楽園球場よりも広かったそうですが結局、集客の問題や砂ぼこりがひどくて12試合しか実施されなかったということです。武蔵製作所跡地の利用で市としての形が整ったことは間違いありません。

＜追記＞前号で書きました鉄道引き込み線の件で
 会員の方からご指摘があり「三鷹」から武蔵製作
 所に線路が敷設されたと書きましたが正しくは
 「武蔵境駅」からでした。お詫びして訂正いたし
 ます。

なお詳しく調べると①大正13年に境浄水場への資材輸送のため「武蔵境駅」から浄水場まで②「武蔵境駅」から中島飛行機武蔵製作所まで物資輸送力確保のため建設されたこれは昭和13年のこと③「三鷹駅」から現中央公園 当時は「武蔵野グリーンパーク野球場」へのアクセス用に昭和26年に敷設され昭和34年に廃線となったということが分かりました。

参考資料：「武蔵野市百年史」、「知られざる軍都多摩・武蔵野」、「戦争の記憶を武蔵野にたずねて」、「戦争と武蔵野市」、季刊むさしの「中島飛行機武蔵製作所」、「TARGET No.357」ふるさと歴史館編、「証言・学徒勤労動員」他



現在の武蔵野中央公園

ひろば

映画『未完成交響楽』

『未完成交響楽』は1933年のオーストリア映画。フランツ・シューベルトの『未完成交響曲』をテーマにしたフィクションで、私の最も好きな映画の一つです。原題“Leise flehen meine Lieder”（秘めやかに闇を縫うわが調べ。堀内敬三訳）

あらすじを手短にご紹介します。若き日のシューベルトが上流階級のサロンでピアノ演奏を行ったのをきっかけに、伯爵令嬢の家庭教師になる。やがて二人は恋に落ちるが、父親の妨害により令嬢は軍人と結婚することになる。その結婚式でシューベルトはピアノ曲を演奏し、未完成の曲の譜面に「わが恋の終らざるが如く、この曲もまた未完成なり」と書く。その間に多くのシューベルトの曲が流れ、美しいシーンが沢山あります。

シューベルト役には、ハンス・ヤーライ。令嬢のカロリーネにはソプラノ歌手のマルタ・エゲルト。夜の酒場で令嬢が踊った後に、歌う歌「我に告げよ」(Sag mir's immer wider) が圧巻です。この歌はシューベ

ルトの曲ではないのですが、素晴らしい曲です。いつの間にか夜が明け、二人が伯爵邸に帰って行く途中の麦畑でのキスシーンがとても綺麗でした。

ラストシーンは、シューベルトが野原を散歩していて、シューベルトのアヴェ・マリアが流れる処で終わります。ハンス・ヤーライ（1906～1990）は映画「カーネギー・ホール」にも出演。主人公の父親役で出演しています。マルタ・エゲルトは、ハンガリーのブタペスト生まれ。1930年映画デビューした後1933年、この映画に出演。代表作となりました。長いドレス、金髪の巻き毛、美貌と持ち前の美声で一世を風靡しました。82歳の時コンサートを行います但其の声量は驚くほどです。1912年4月生まれ。2013年12月没。何と101歳でその生涯を閉じました。

吉祥寺南町 小坂



むさしのSCトピックス

- 7/2(月) 会員向け自転車無料点検がありました。
- 7/9(月) 安全パトロールが実施されました。
- 7/18(水) 「安全就業推進のつどい」がありました。(小金井宮地楽器ホール)
- 7/25(水) 植木班・器材点検が行われました。
- 8/21(火) 出張入会説明会(東部地区)がありました。
- 9/28(金) 平成30年度シルバー人材センター安全大会が開催されました。(東京しごとセンター)



安全就業推進のつどい

編集後記

平成最後の夏は列島を次々と見舞った天災が記憶に深い爪痕を残しました。酷暑、西日本豪雨、超大型台風、北海道地震と“経験したことのない”異常気象や災害に遭遇し、自然の猛威への備えを忘れてはならないと気付かされました。

暗いニュースの中でテニス界に彗星のごとく現れた大坂なおみ選手のくったくなくない笑顔が救いでした。日本人離れした風貌に戸惑ったのもつかの間、なおみ節でのユーモア溢れる受け答えに皆が拍手喝采！国際社会で愛される選手が増え、人と接する場で日本人の礼儀正しさや謙虚さが改めて注目されています。シルバー人材センターで接遇の際は彼らの先輩として恥じない行いを心がけたいものです。

(高山)